

2020. 6. 7 第一主日礼拝

I コリント 1:1-9 「神の教会、聖なる教会」

聖書

- 1 神のみこころによりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、
- 2 コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、キリスト・イエスにあって聖なる者とされ、聖徒として召された方々へ。主はそのすべての人の主であり、私たちの主です。
- 3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
- 4 私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。
- 5 あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。
- 6 キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。
- 7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっていきます。
- 8 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。
- 9 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。

はじめに

先週はペンテコステのお祝いでした。イエスさまが天に引き上げられた後、聖霊なる神さまが弟子たちに降り、弟子たちはいのちをかけてイエスさまの十字架と復活のメッセージを伝える器に変えられました。ユダヤ人から異邦人へと福音は広がって行ったのですが、その中心的な役割を果たしたのがパウロという伝道者です。パウロは3回に亘って地中海沿岸のアジア・ヨーロッパ地域に伝道しました。パウロは第二回伝道旅行でコリントにやって来て、一年半腰を据えて伝道した結果、コリント教会が誕生したのです。聖霊によって生み出された教会の姿に触れることで、今日の私たちへの語りかけを頂きたいと願っています。本日の礼拝からコリント教会について学び、聖霊の豊かな働きに心を向けたいと思います。

1. コリントってどんな町

コリントはどこにあるのかわかりますでしょうか。聖書の巻末に地図が載っていますので、確かめてみましょう。コリントはギリシャの南端に位置し、アテネの西 80 km くらいのところに位置します。コリントはアカヤ地方の首都であり、ローマに通じる西の海路とアジアに通じる東の海路の中継点です。東西の貿易の要であり、南北の陸路の拠点となっていることから、当時大いに繁栄した町です。人と物が行き交う場所ですから、様々な文化が交錯した国際都市の様相を呈していました。商業都市として栄えたのは良いのですが、一方で類を見ないほどの道徳的腐敗の町として有名で、コリントのシンボルであるアフロディーテ神殿には 1000 人の神殿娼婦がいたそうです。因みにアフロディーテはギリシャ神話に出て来る愛と美の女神（ローマ神話のヴィーナス）で性的放縱の象徴的存在でした。その乱れた風紀は言わずもがなです。

そのような町に教会が建てられたのですから、そこに様々な問題が発生したことは想像に難くありません。パウロがコリント教会に手紙を書かなければならなかった理由は、コリント教会の実情を聞かされたからです。聖霊とともに手塩をかけて生み出した教会が大変な状況になっていると聞いて、手紙を送って是正に乗り出したわけです。ですから、コリント人への手紙は具体的な問題を扱っています。その問題は当時のコリント教会の背景から生じたものであるゆえに、現代の教会にそのまま適用するのが難しいものもあります。しかし、当時と形は違えども現代に通じる普遍的なメッセージも込められているので、謙って耳を傾けなければなりません。いやむしろ、全体的に都市化が進み、世俗的な風潮が蔓延する現代だからこそ、コリント教会から学ばなければならないと言えるでしょう。

2. 真実な挨拶

多くの問題を抱えていたコリント教会ですが、いきなり叱責から入るような野暮なことはしてはいけません。そんなことをしたら相手は最初から心を閉ざしてしまうでしょう。パウロは1~4節で愛に富んだ挨拶を送っています。「コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、キリスト・イエスにあって聖なる者とされ、聖徒として召された方々へ。」(2節)と呼びかけ、「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。」(3節)と祝福の祈りをささげています。

この挨拶は、コリント教会の実情からすれば皮肉にも受け取れるかもしれませんが、美辞麗句でもなければ皮肉でもありません。「神の教会」「聖なる者とされ、聖徒として召された方々」ということばの中に教会とは何か、ク

リスタンとはどのような者なのかという大切な内容が含まれています。教会はエンカレオー（ギリシャ語：呼び出す）ということばから来ており、罪の世界から神さまによって呼び出された者たちの集まりという意味です。思考や言動が整えられていないとしても、神さまによって呼び出された事実は変わりません。それゆえに、教会は神のものであり、呼び出された者一人一人は聖なる者なのです。これは行いによって計られるものではなく、イエスさまを救い主として信じたときに内的に起こる身分の変化なのです。教会は、またはクリスチャンは神さまのものであり、聖なる者であることを忘れないようにしましょう。この視点を欠いてしまうと、教会の諸問題やクリスチャンの素行を見て、「あれでも教会なの？」「あれでクリスチャンって言えるの？」という批判が生まれてしまいます。勿論、神の教会、聖なる者として整えられて行かなければなりません。至らない点だけをあげつらうような態度は慎まなければならないと思います。パウロはコリント教会のために「恵みと平安があなたがたにありますように。」(3節)と愛をもって祈りました。私たちが地上の教会に対して、また兄弟姉妹に対して、出来ていない面を見る以上に、愛をもってキリストの恵みと平安を祈りましょう。

3. 神さまに感謝

人には二つのタイプがあります。人の欠点ばかりが目につく人と人の良いところが目につく人です。自分はどちらだろうかと探られます。私は前者です。ゆえに身近な人を傷つけていることが多くあることを示されます。ある家庭集会で、奥さんがご主人のことをほめているのを聞いて、私は妻をそのように思っているだろうか…と探られたことを思い起こします。

パウロは問題課題がどれだけあったとしても、コリント教会のために実に

よく祈っています。祈っているだけではありません。コリント教会に与えられた良きものを見て、神さまに心から感謝をささげています。「私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。」(4 節) と。相手の祝福を心から祈っているから、厳しいことも言えるのでしょう。事実、コリント教会は「ことばとあらゆる知識」において知的な面で優れていました。後に知識偏重の問題点を指摘されていますが、知識そのものは神さまの恵みです。また、紛れもなくキリストを証する者とされ、豊かな賜物を持った人たちの集まりでした。熱心にキリストの再臨を待ち望む信仰も持っていました。このような良い面を見て、神さまに感謝をささげるパウロの姿勢に私たちも倣いたいと思います。

4. 召された者同士の交わり

私たちの教会の名前は、「インマヌエル豊田キリスト教会」です。「キリスト」ということばを省略することもあります。が、「キリストの教会」という意味で「キリスト」ということばはとても重要な意味を持っています。なぜなら、冒頭でも触れましたように、教会またはクリスチャンはキリストに召されたものだからです。この意識を強く持っていたのがパウロです。パウロは自己紹介するときに「神のみこころにより、キリスト・イエスの使徒として召されたパウロ」(1 節) と言っています。そしてコリント教会の人たちのことも「神に召されて…私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられた」(9 節) 人たちだと言っています。

パウロもコリント教会の人たちも、キリストに召された人たちですから、イエスさまの前には同じなのです。上下関係ではなくパートナー関係なので

す。確かにパウロは教える側にいますが、自分も励ましを得たいと言っている箇所があり（ローマ 1:12）、共に福音のために労する仲間という意識を持っていました。このことは牧師と信徒の関係にも当てはまります。牧師と信徒は上下関係ではありません。務めの違いであって両者はパートナーです。互いに高め合うために不可欠な存在であり、どちらかが欠けたら宣教はできないし、教会は建て上がらないのです。お互いにキリストに召された者ですから、いっしょにイエスさまのために生きていきましょう。そしてイエスさまと共に歩む人が起こされるように、労苦をともにしたいと願っています。私は「同労者」ということばが好きです。パウロがしばしば用いたことばです。インマヌエル豊田キリスト教会の愛する同労者と共に、教会に仕えて行きましょう。

まとめ

私たちはイエスさまによって召された者です。召された者同士がキリストの愛によって結び合わされているのが教会です。主は私たちの教会を「神の教会」と呼び、「聖なる者」と言ってくださることを感謝します。「神は真実です」（9節）から、そのことばは確かです。私たちの教会や信仰者に対する見方を神さまが見ておられる見方に合わせていくなれば、もっと豊かな恵みと祝福をいただくことができるでしょう。「あなたはイエスさまによって召された聖なる者です」と、互いに尊び合って歩んで行きましょう。